

## 魚 類 の 生 活 色 に 就 いて (第 13)

黒 田 長 禮

On the life colors of some fishes—XIII.

Nagamichi KURODA

(179) コバンザメ *Echeneis naucrates* L. 1955 年 7 月 29 日沼津市営千本水族館で目測全長 600 mm 位の 1 尾を見た(動・雑 65(2): 48, fig. 3, 1956, 参照)。虹彩は黒色, 外細輪は黄色。体の背方はオリーブ灰色, 体側は白く中央に黒色の巾太い縦帯が通り, 次の腹方は白い。凡べての鱗は黒色。C. の後縁は多少凸である。受口が著しい。

(180) ナガコバン *Remora remora* (L.). 異名クモコバン (*Echeneis nubibera* TANAKA) [松原, 1954 による]。1946 年 10 月 22 日伊豆西浦のイワシ夜網に入ったヤリマンボウに附着していたものを入手した。「生物」iv: 206, 1949 に報告はしたが体色の記載がなかつたから今茲に記す。体色は一様な帯紫濃石板灰色で, 極めて不判明な横帯 22 個を認める。各鱗もまた

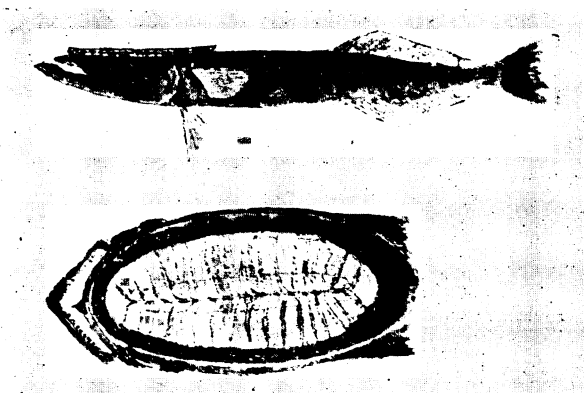


Fig. 1. ナガコバン

伊豆西浦 全長 250 mm 上全形, 下頭上 (著者原図)

た体と同色であるが, C. の後縁は淡灰色である外は石板色を呈し, 体色より濃い。P. と A. は他鱗より少し淡く, A. は殊に淡灰色。P. の先縁は多少淡色となる。背吸盤 (I D. 17) は帯紫灰色で, 各横稜は後縁に鋸歯がある。各横稜間は淡灰色で色が淡い。虹彩は甚だ濃い暗褐色, 内輪は黄金色。

測定—全長 240 mm; 体長 210 mm; 体高 27.5; I D. 17; II D. 28; A. 24; P. ca. 24; V. I, 5; C. 17; 吸盤長 64.5 mm; 同最大巾 31 mm。

本種は非常に大夫は魚で水揚げ後は水なしで十数時間も生きていた。

(181) クロコバン *Remora brachyptera* (LOWE). 此種は嘗て駿河湾採集の 1 標品 (大山蒐集品) を見たが, 私が入手したのは, 1950 年 10 月 22 日に伊豆網代で大船に附着の生魚を山内父子によつて採集した 1 点 (幼魚) (全長 203 mm, I D. 16) である。全身一様な甚だ淡い紫灰色を呈する。[他の例では帯紫白色とされたり, 又蒲原氏 (1950) は灰褐色と書かれる]。1958~1959 年に採集の駿東郡原町桃里の 1 点 (全長 178, D. 16) をも入手。

(182) トラギス *Parapercis pulchella* (T. & S.). 学士により *Cilias* OGILBY (1910) に編入する。1946 年 11 月 10 日千本沖手繰網中の 1 中幼魚 (全長 111 mm) を入手した。虹彩は灰黄色, 上方オリーブ色に暗斑が入り, 内細輪は橙黄色。頭の地色は暗オリーブ褐色で, 眼前少し下から上唇の上に達する紺青色の 1 線, 眼下と眼後に多少中漸した美紺色線があり, それ

らの上方と下方は淡蒼色となる。即ち頭側は少くとも 5 横線がある。下唇・下顎及び鰓蓋前骨後方には濃暗褐色の鮮明な斑点が少量ある。項部両側には流紋状斑があり、それから淡色の不判明な 1 縦細線が走り、その上方にも 1 個ある。体側中央の淡色の巾広の縦帯は淡紅白色で内に微小赤点を散在し、この淡色帯の上下縁には多少黒色の線斑からなる縁取りを示すが、凹凸して不規則である。この中幼魚では背方に横帯は認められないが、中央淡色帯以下には暗桃赤色の擬円斑或は横帯状斑があり、これが 1 幅広の縦帯風に連なる。D. 棘は膜淡オリーブで、それに各 1 個の擬黒色横斑がある。D. 軟条部には基部に淡黄楕円斑、次に淡紅赤色小斑とがあり交互に縦列にあり、軟条上端は淡紅赤色点を有する。P. は淡紅色、基部に 1 黒点がある。V. は淡紅色で、第 4 軟条は先端が少しく糸状になる。

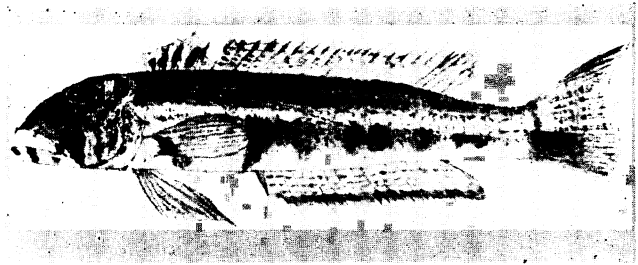


Fig. 2. トラギス 中幼魚  
千本沖 全長 111 mm (著者原図)

A. (I, 18) の棘は紅色、他は美黄色で、3 縦列の灰色点があり、下縁には時時は巾広の暗紅色の縁取りがある。C. は上方 2/3 は黄色を主とし、最上の数軟条は多少糸状に延び、中央部には淡紅赤色点と灰色との交互の 5~7 横線を示す。C. 下方約 1/3 は暗赤色で、先方少々黄色を帯び、中央には紅赤色の小斑があるが不判明、そしてこの 1/3 部の上方基部には灰黒赤色部があり、その基部は擬黒色の擬円斑となる。

(183) クラカケトラギス *Neopercis sexfasciata* (T. & S.). 異名クラカケギス。1946 年 10 月 11 日千本沖手繰網に入った 1 成魚(全長 200 mm)を入手した。若魚に比し背の V 字斑は淡色となる傾向がある。眼先きに 1 黄線、その下に平行の 1 黄線があり、頬と鰓蓋に小黄斑から出来た 3 列の曲線がある。側線直下に不判明な小黄点の 3~4 縦列がある。D. 軟条に淡黄色波状の 4 縦帯がある。C. の中央に褐黄色の小虫喰状の短 4 横斑がある。C. 下方

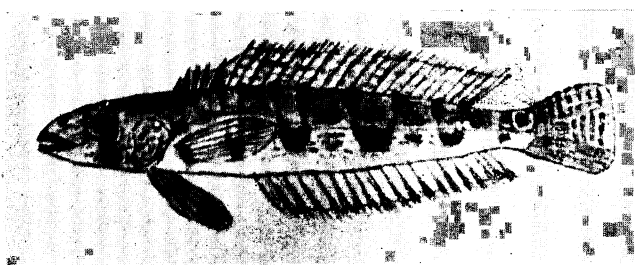


Fig. 3. クラカケトラギス 成魚  
千本沖 全長 200 mm (著者原図)

は灰オリーブ色。A. は白軸に沿い黄色、後方軟条の先端は灰色。P. は白色で僅に淡黄を帯びる。V. は灰色で、内方に淡オリーブ色を帯びる。体の背面の色は淡紅灰色である。其他の点は縦来の原色図に等しい。虹彩は黄色。

次に 1945 年 10 月 24 日千本沖手繰に入った 1 点(全長 121

mm) は普通例より著しく淡色で、背面は灰色、V 字斑は少々不判明にあつて、眼下の 1 帯は頬に淡灰色の 1 斑として存するのみとなる。C. の中央は赭栗色。虹彩は淡橙黄色である。

(184) ヘビギソポ *Tripterygion etheostoma* JORDAN & SNYDER. *Enneapterygius* 属は異名。この種は雌雄異色で著名である。1848 年 6 月 7 日牛臥で採集の雄亜成魚(全長 53 mm)は雄の特徴を充分備えているが、体の横帯が後方にあつて、3 条が頗る明瞭になつている。外に

前方にも3条が少々不明に存する。C.に7横線があり、後方は截形となり、C.基部に赤褐色(雌に似る)を有する。虹彩は灰色、内輪黄金色。又我入道では1946年5月31日に明かな1番(つがい)を入手した。虹彩雄(全長61mm)では暗褐色、雌(全長59mm)では赤色を呈した。

(185) イソギンポ *Blennius yatabei* JORDAN & SNYDER. 1946年5月31日我入道牛

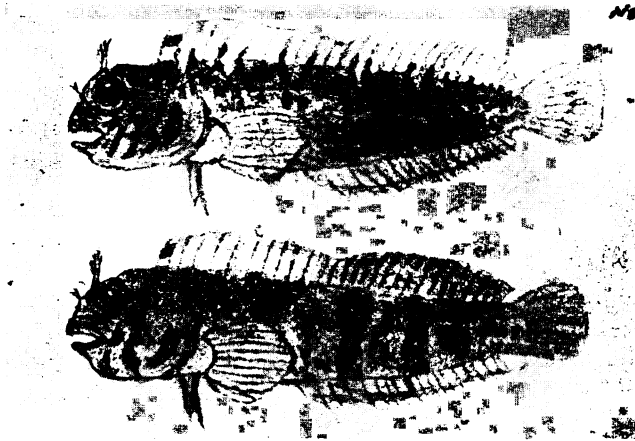


Fig. 4. イソギンポ 稚魚(拡大)  
我入道タイドプール 異常色2型  
上黄色型 全長25mm 下紅色型 全長23mm  
(著者原図)

臥附近の岩礁地帯で主にタイドプール内で稚魚(全長23, 25mm)2点を採集した。虹彩は暗褐色、内細輪は黄金色。全長23mmの方は体は帯紅色が強く、体側に不明瞭の横帯があり、各鱗は帯紅色を呈する。全長25mmの方は体は帯黄灰蒼色。D.の初めに1黒斑がある。体側の斑は点状となり従来のに一致する。鱗は凡べて銜色である。これらはコケギンポ(*Neoclinus bryope* (J. & S.))の場合と同じく棲息地区の色彩に適應して体色が変わつて来るものらしい。(魚・雑, 2(4~5); 217, 1952 参照)。

(186) ナベカ *Omobranchus elegans* (STEINDACHNER). 1946年5月31日牛臥・我入道間にて採集の1点(全長53mm)は虹彩オリブ褐色。体前方の黒帯と黒帯とは同幅で、その間に1小黒横線が入っている個体であつた。多少珍らしい例かと思う。静浦地方(志下・江ノ浦等)の個体には黒帯と黄帯の幅に変異が認められ、主に頭に近い部分の黒帯の方が黄帯より巾広く、又他のものでは正反対の例もあつた。

附記一珍らしいトサカギンポ *Omobranchus uekii* (KATAYAMA) はこれ迄富山湾・豊橋・浜松・浜名湖・東京・支那(松原, 1955)から獲られたことが報ぜられているが、最近私は足立辰雄君が1959年12月千葉県市川市湊(みなと)の新浜で1尾採集して寄贈を受けた。この地は新産地の一つと思われる。図を示す。(液漬標品)



Fig. 5. トサカギンポ(烏帽子は1個他は影)  
千葉県新浜産 xii. 1959 (著者写真)

(187) ダイナギンポ *Dictyosoma burgeri* VAN DER HOEVEN. 従来ギンポ科(Blenniidae)に入っていたが松原氏(1955)はニシギンポ科(Pholidae)にギンポと共に加えられた。1946年5月31日牛臥・我入道間のイタドプールで2幼魚を採集した。全長48mmの例は体は普通の帯黒オリブで、死後も変色しなかつた。虹彩は暗褐色。処が全長96.5mmの方は虹彩橙黄色で内輪は鮮赤色を呈した。この方は採集時は普通の黒味勝ちのものであつたが、ガラス容器に入れ木台上に置いた処、体の背面に数個の黄白点を間隔を置いて生じ、額部も黄白色となつた。斃死する直前から灰紅色に変色した。

ダイナンギンポは活魚のときは著しく柔いが、ドジョウと同じ様にフオーマリン漬は硬直すること全くカミソリウオの異名に当る。

(188) シマイタチ *Neobythites fasciatus* SMITH & RADCLIFFE. 1947 年 12 月 27 日伊豆戸田沖トロールに入つた幼魚 1 点 (全長 171 mm) を入手。虹彩は黄金銀色、上方は褐色。

体は帯淡紅紫白色で頭部は灰白色。鰓蓋下半と腹部は淡蒼色を帯びる。眼から吻端と眼後方とに灰黒色線斑がある。体側には 12~13 個の不判明な淡灰色の横斑状と擬円斑とがあり、体前方では主に側線上方にあり、後方では側線上下に跨る。D. は淡灰白色で後方は幾分オリーブを帯

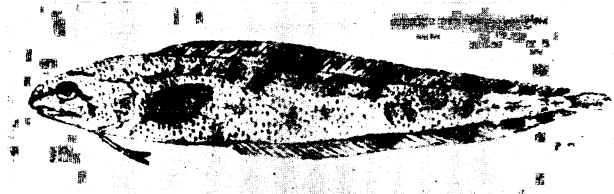


Fig. 6. シマイタチ 幼魚  
戸田沖トロール 全長 171 mm (著者原図)

び、D. 中央に 3 個の楕円形の濃灰黒色大斑がある。其他には灰色の中小斑が不規則にあり、多くは長味斑である。C. は明に D. と A. とより分離し、濃灰色に淡オリーブ色を帯びる。P. は灰白で透明。V. は白色の 1 条で、先方が 2 分する。A. は D. と同色で、2 楕円斑は第 2、第 3 斑と対在し、その他は後方に 2 小斑あるのみにて前方は無斑である。大体松原氏 1955, pt. III, pl. 87, fig. 304 に一致する。外に原町下とオス川沖から 3 点を入手した。

(189) シオイタチ *Neobythites sivicolus* (JORDAN & SNYDER). 1945 年 10 月 24 日千本沖手繰網に入つた 1 成魚 (半熟卵あり) (全長 210 mm) を入手した。これの簡単な報告は「生物」VIII(1): 31, 1947 に出してある。新鮮色は背は淡褐色で、体側から腹へ淡灰色で、3 縦列の灰白色斑が列在する。D. は淡褐色無斑で、C. に近き程灰黒色を帯び、C. は小形で D. と分離して灰黒色。A. は灰色で後半部は灰黒色となり、細白縁を持つ。P. は淡灰色で、先端は擬白色。V. は 2 軟条で半透明に微小黒点があり、半位から 2 分し、一方は他方より少し長く、これらの先端は桃色を呈する。両唇と頭下面から肛門迄は黒灰色を帯びる。虹彩は淡黄色に微小淡褐点がある。

外に原町下から 1957~58 に採集の 1 点を入手した。

### Résumé

The thirteenth of this article contains descriptions of life colors of the species Nos. 179-189, with some interesting notes on *Remora remora*, *Blennius yatabei*, *Dictyosoma burgeri*, etc. from Suruga Bay and a new record of occurrence of *Omobranchus uekii* from Shinhama, Chiba Prefecture.